

22 アンリ・モンドールについて

——フランスの外科医そして文学者

今泉 孝

アンリ・モンドールは、わが国では「モンドール病（主に胸腹に皮下索条として出現する脈管炎）」に名を残していることで知られている。彼は外科医として著名であったが、また同時に文学者としても優れており、絵もよくした。彼の経歴や業績などについてはあまり知られていないようなので、今回報告させていただく。

一、生涯

一八八五年五月二十日 フランスのカンタル県サン・セルナンで生まれる。

一九〇三年（十七歳） 医学勉強のためにパリに出てくる。

一九〇六年五月十五日（二十歳） エクステルヌとなる。

一九〇九年五月一日（二十三歳） アンテルヌとなる。

一九一三年秋（二十八歳） 学位取得。

一九二六年五月十九日（四十歳） 外科アカデミーの会員に選ばれる。

一九三〇年（四十四歳） 『緊急的診断』を出版。

一九三八年（五十二歳） パリ医学部外科病理学講座担当。

一九四五年五月十五日（五十九歳） 医学アカデミーの会員に選ばれる。

一九四六年四月四日（六十歳） アカデミー・フランセーズの会員に選ばれる。

一九五五年九月三十日（七十歳） サルペトリエール病院を去る。

一九五六年一月一日（七十歳） 名誉教授となる。

一九六一年十一月十三日（七十六歳） 科学アカデミーの会員に選ばれる。

一九六二年四月六日（七十六歳） パリ近くのヌイイのアメリカン・ホスピタルで死去。

二、医学的業績

一九三〇年に、『緊急的診断・腹部』を刊行し、これは第八刷、三万部、六カ国語に翻訳された。

一九三九年に、「前外部胸郭の垂急性皮下静脈炎」を報告。後に「索状静脈炎」と改めた。

一九五〇年、カピタノフはこれを「モンドール病」と呼ぶことを提唱した。

三、文学的業績

ステファヌ・マラルメについて

「マラルメの生涯」(一九四一〜四二)

ポール・ヴァレリーについて

医学史関係

「ほぼすべての偉大な医師たち」(一九四三)

「解剖学者と外科医たち」(一九四九)

四、日本におけるモンドール病の報告について

一九三一年「一種特異ナル静脈炎ニ就イテ」(藤田善吾)。

一九三四年「腹壁ニ見ラレタル表在性静脈炎ノ一例」

(植田貞三)。

一九五六年「いわゆる Mondor 氏病の二例」(外賀連

男)。

一九五七年「Mondor 氏病について」(井口昌憲)。

一九五七年「Mondor 氏病の一例」(村田仁)。

一九五七年「いわゆる Mondor 氏病について」(赤井貞彦)

一九五七年「Mondor 病の七例」(肥田野信)。

五、モンドール病院について

一九六七年、パリ近郊のクレティユ市の新設病院にモンドールの名前が冠されることになった。病院入り口のホールにはモンドールの横顔を刻んだレリーフがある。

六、その他

モンドールの肖像を用いた切手が一九八二年にフランスで発売された。

(弘前大学医学部皮膚科)